

立沢里山

平成19年11月3日 里山新聞 第9号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
 立沢里山ホームページ
<http://www3.ocn.ne.jp/~tatuzawa>

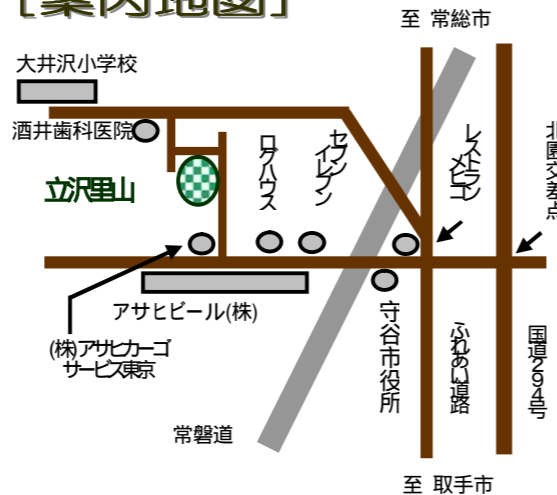
ボランティア募集
 あなたも一輪に楽しみましょう!

～目次～

- 1 稲刈り体験学習
- 2 脱穀作業
- 3 小学校の収穫祭
- 4 明治時代の立沢周辺
- 5 秋の自然観察会



【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

san-seino@hb.tp1.jp

清野



1 北守谷地区小学校合同稲刈り体験学習

台風9号が関東に上陸し日本列島を北上した暴風雨も上がった9月14日（金）、真夏を思わせる厳しい残暑の中、今年4回目を迎えた北守谷地区小学校合同立沢里山稲刈り体験学習が実施されました。立沢里山の会は体験学習支援の為に9月8日と当日も朝から汗だくで万端に事前準備を整えました。ボランティアメンバー12名程が子供達を待ち受ける中、9時半頃大井沢小学校、御所ヶ丘小学校、松前台小学校3校の5年生約200名が全員徒歩で立沢里山に集合しました。田植えの時よりも更に一段と成長した笑顔、「おはようございます!」と元気の挨拶。春の田植えの時と同様、PTA、教育委員会、取材の方々とたくさんの方が見守る中、鈴木代表の挨拶に続き、まず各代表の先生が海老原さんから稲刈りのやり方の説明と実習指導を受けました。

そして学校毎に春に田植えをした田んぼに別れて、初めて体験する稲刈りに挑戦。泥に足をとられて、始めは緊張した様子でなかなかスムーズに行かなかったが、慣れてくると楽しそうな笑いや明るい声が飛び交います。ボランティアの支援もあり2時間程で稲刈り作業は終了しました。泥だらけになりながらも気持ちよい汗を流し、生徒も先生も充実した達成感で満足そうな笑顔一杯でした。

作業が終わって「ありがとうございました」と気持ちのいい挨拶をしながら、泥んこ姿のまま各学校に戻って行きました。

そのあと、里山の会のメンバーは気力を奮い起こ



2 脱穀作業

稲刈りから日もたってオダ木に干した稲も十分に乾燥したことから、9月22日（土）に脱穀と籾すり作業が行われました。

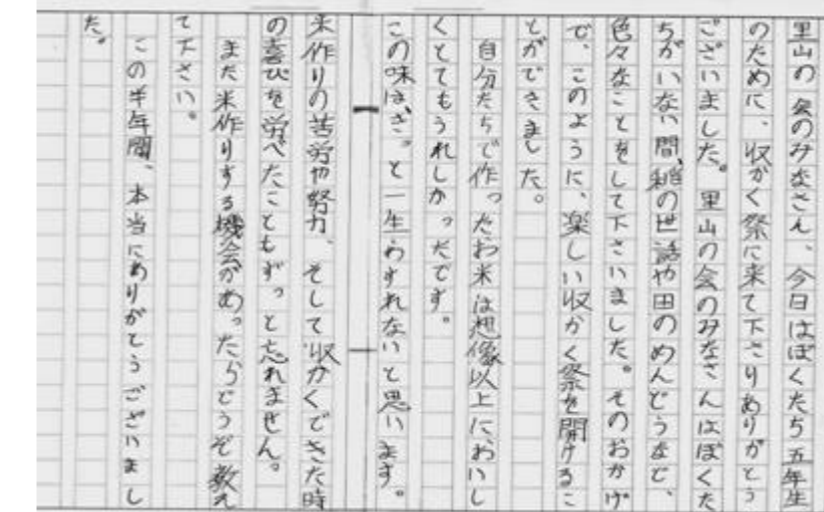
今年の収穫量は270kg（4俵半）と昨年と同じでした。



3 大井沢小学校の収穫祭

10月18日（木）大井沢小学校において収穫祭が行われ、里山の会から3名が参加しました。子供達から「立沢里山の会」に感謝状が贈られました。

←感謝状



守谷市広報誌

収穫の秋！立沢に参りました 小学生稲刈り体験学習
 立沢里山の会では、毎月、地産地消を推進する中で、今年も9月14日に稲刈り体験学習を行いました。当日は、立沢里山の会が準備した稲刈り体験学習に、約200名の子供達が参加しました。

栗原信一 記



し大人用の田んぼ1枚の稲刈りです。残念ながらこの1週間で雀に食べられたような稲穂の状況にがっかりしましたが、太っ腹で自然界に貢献しているぞ!と納得、そして最後に全ての作業と後片付けを完了して笑顔で記念撮影。

里山スタッフの皆さん!日頃の地道な活動の努力があればこそ、できる貴重な体験学習であったと思います。本当にお疲れ様でした。

4 明治時代の立沢周辺

明治14年4月の帝国陸軍が作成した二万分の一の図面が出てきました。測量を担当した第二班第二測手陸軍歩兵少尉の名前も記載され、測量図面だけでなく守谷から見た筑波山や立沢村路傍の杉の木のスケッチもついています。

グーグルの衛星写真に明治時代の地図を重ねてみるといろんなことが解ります。当時の地形図を読みとり、海老原さんのお祖母ちゃんにお聞きした話などをもとに昔の立沢周辺の風景を想像してみます。

立沢は守谷市に合併する前は大井沢村、その前は立沢村といわれ、本田、向山、向地、後田、野口とかなり広範囲でした。今の「ふれあい道路」はほぼ同一路線で明治時代からあったようです。所々松並木でしたが、片側だけでも残せなかったでしょうか、惜しかったですね。

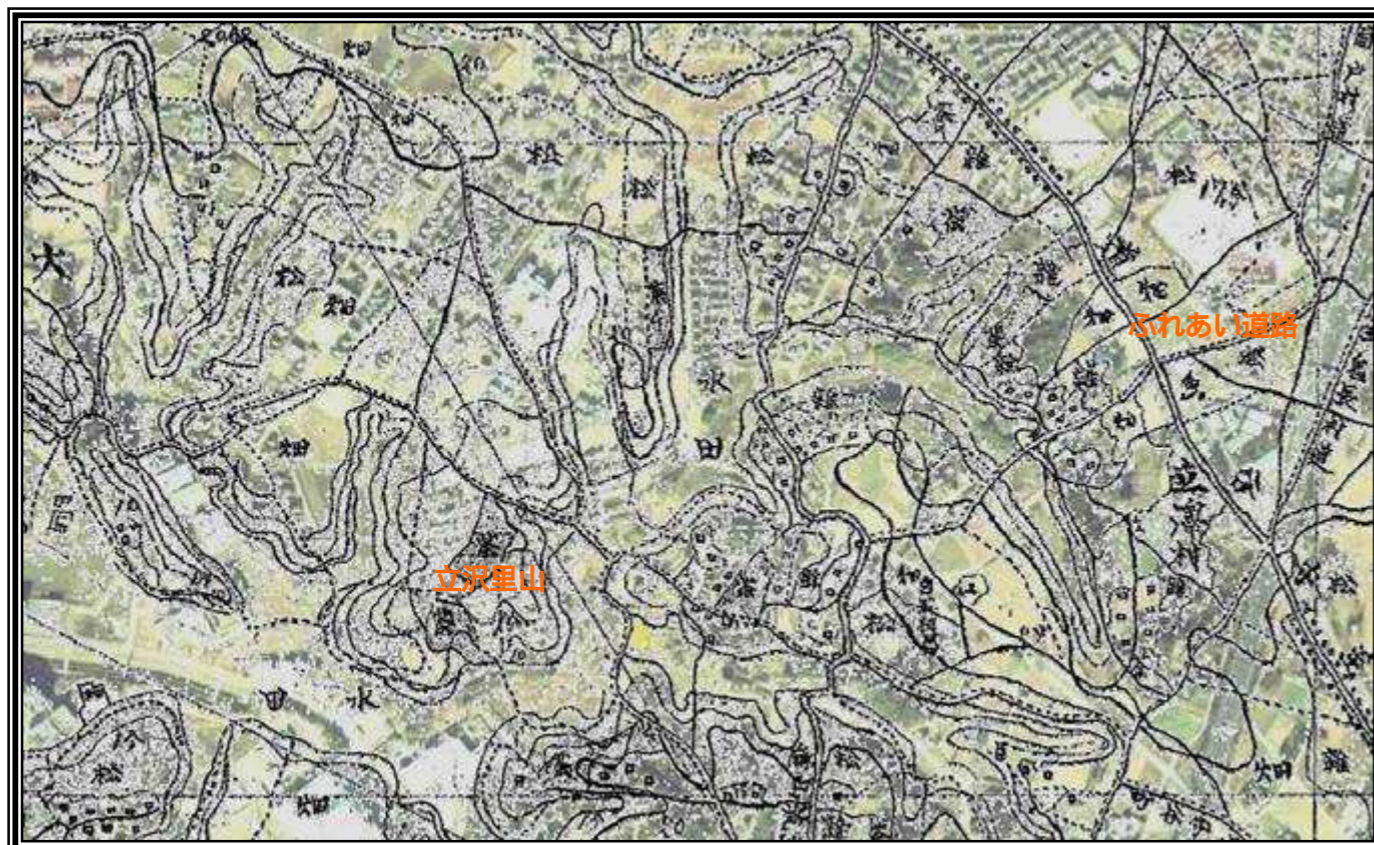
大正2年に関東鉄道が出来る前は、利根川鬼怒川の水運が盛んで、大正7年頃までは蒸気船通運丸が日本橋との間を運行し、河岸のあった野木崎、大木や板戸井あたりは鬼怒川の入り口として大いに賑わいました。多くの舟問屋、茶屋があり、清滝神社境内では芝居興行が催され、村内だけでなく柏や流山などからも大勢が来るほどだったようです。

そんな街からみると、大野川に沿って谷津田が入り込み、立沢はその上流部に位置していました。沢が森の中へ竜のように曲がりくねって入り込んでいたことから立(竜)沢と言われたのかもしれませんがね。台地上の森の中には集落や畑があり、お茶、綿花、桑などが栽培されていました。台地の法尻にはあちこちから沢山の湧き水がありました。湧き水は水田の灌漑だけでなく、飲み水にも使われました。一頃は養蚕が盛んで、この湧き水で桑を洗ったそうです。

里山を通る道路は下水道整備で拡張されていますが、昔から細い道があり、守谷駅から大井沢方面の幹線道路でした。子供達は里山の道路から薬師台、四季の里、大円寺あたりを歩いて大井沢小学校へ通学したそうです。里山向かいの薬師台5丁目あたりはかなり広い里山で、昼でも一人で通るのは怖いほどの薄暗い森があり、季節にはヤマユリやニンソウなどがあちこちに咲いていたとのこと。



明治の図面と衛星写真の合成



5 秋の自然観察会

10月14日(日)午前9時から立沢谷津周辺において秋の自然観察会が行われました。守谷市役所駐車場に集合し、立沢里山の貴重な自然を最初に評価し保護を提唱されたといわれる元守谷自然調査会団長の五木田悦郎先生の挨拶の後、早速観察会に出発です。



今回の講師、案内役は五木田先生(植物)の他、高田先生(植物)、安本先生(鳥類)、石塚先生(昆虫)とそうそうたるメンバーです。御高齢の先生もおられましたが歩く姿はさっそうとしていました。参加人数は約70名とかなりのものでした。

観察会のルートは図のとおり、ちょうど立沢里山が折り返し、休憩地点となり、ベンチに腰掛けて一休みしながらの説明会では、突然の指名でしたが「立沢里山の会」の活動状況も紹介しておきました。立沢里山のミゾソバの群落が満開、ふゆ水田んぼにはコナギの花も咲いていて皆興味深げでした。

ただ漫然と散歩するのではなく先生の話聞きながら歩くと、沢山の植物、昆虫、鳥の名前等も解り、同じカ所の景色も普段とは違って見えてきます。実に秋らしいさわやかな天気を満喫できました。

先生の話で特に印象に残ったのは、地球温暖化の影響か、昔はなかった「ナガサキアゲハ」などが守谷でも見られること。集落内の立派なケヤキ並木は昔、乾燥に弱いスギを守るために

屋敷林の周囲に植えられたもので明確な目的を持って行われたこと、シダジヤエノキの大木は大変貴重な存在であること、同じドングリでも常緑のシラカシと落葉のコラでは帽子ナの模様が違う。ススキに似ているが綿毛が純白なオギが最近では増えていること、等々でした。

昔は里山周辺の湧き水も沢山あったが開発で少なくなったそうです。野鳥の会の観察会も近いうちに立沢里山周辺で予定されているようです。秋の七草を探しながら散策してはいかがでしょうか。

散策ルート

ケヤキ並木

